

**【全国実施分】学力調査結果の分析による具体的改善策 中学校3年**

**1 教科に関する調査**

《平均正答率全国比》

R 6 年度（昨年度）結果	R 7 年度（今年度）結果
国 語	国 語
83	107
数 学	数 学
88	91
	理 科 ※IRTスコア
	108

	全国平均正答率を下回った問題（平均正答率の低い問題）	考えられる要因
国語	<p>①変換した漢字として適切なものを選択する。 (かいしん)</p> <p>②スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する。</p>	<p>①文脈に対して正しい漢字を選択できなかったためと考えられる。</p> <p>②資料などを適切に使って、自分の考えを分かりやすく伝える力がついていなかったためと考えられる。</p>
数学	<p>① A 駅から 60.0 km の地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する。</p> <p>② 平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に <math>BE=DF</math> となる点 E,F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE との交点を H としたとき四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する。</p>	<p>① 比例のグラフ、座標の意味数学的に説明する力の定着が不十分であったためと考えられる。</p> <p>② 平行四辺形になるための条件、証明のかき方の定着が不十分であったためと考えられる。</p>
理科	<p>① 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗の大きい装置や早く水が温まる装置を選択する。</p> <p>② 牧野富太郎の「ツユクサ」のスケッチから、ツユクサの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する。</p>	<p>① 電気抵抗と発生する熱量について考えることができていないため。</p> <p>② 植物の体のつくりについて復習が不十分。</p>

## 2 生徒質問調査

※肯定的回答の割合（「学びに向かう力」「主体的・対話的で深い学び」に関連）

質問事項		R 6 年度結果	R 7 年度結果
教科の勉強は好きですか。	国語	88.3%	94.1%
	数学	70.6%	64.7%
	理科	%	88.2%
教科の授業の内容はよく分かりますか。	国語	100%	100%
	算数	94.1%	94.1%
	理科		76.4%
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。		88.3%	94.2%

## 3 具体的改善策

この取組を組織的に行えば学力が向上するのではないかと**いう仮説を立て検証する。**

- ① 9 月から **高校入試まで** 取り組む（継続する） **学校の組織的な学力向上の取組の改善策**  
（焦点化・重点化 1～2 点）

○ 5 教科の授業においては始まりの 5 分間はドリルタイムやキュビナや単元テストの時間として取り組む。
○ 6 限終了後のドリルタイムは、新研究による入試対策に取り組み、C 層の生徒に対する見守りと直接指導を行う。
○ 文化祭終了後の放課後より、（1 時間程度）5 教科担任が入試対策としてプリントを準備し、指導にあたる。

↑

（**全職員で協議し**、共通理解したものを入力）

※県調査で記入した改善策と同様でもよいが、必ず全教職員で再度共通理解をする。

- ② 9 月から **高校入試まで** 取り組む、国語・数学における **授業改善・学習定着状況の把握・家庭学習・補充学習の改善策**

	授業改善	学習定着状況の把握	家庭学習・補充学習
国語	○授業開始 5 分間の漢字ドリルの継続。 ○単元に 1 回以上、自分の考えをまとめ表現する場を設定するとともに、他と比較検討する場も設定する。	○週一回の漢字テスト  ○単元テスト・確認テスト 実力テスト	○漢字ノート・漢字プリントの継続  ○データベースの活用。  ○弱点補強問題の実施。
数学	○授業開始 5 分間問題の内容の見直し ○単元に 1 回以上、自ら考えをまとめ表現する場、他と比較・検討する場を設定する	○単元テストの実施  ○確認テストや実力テスト、週末課題等	○問題データベースの活用  ○各種テスト結果より、弱点補強問題の実施
理科	○授業開始 5 分間ドリルの継続。（復習演習の徹底） ○単元初めの単元計画の確認 ○単元に 1 回以上、自ら考えをまとめ表現する場、他と比較・検討する場を設定する。	○単元テストの実施。  ○AI ドリルの活用。	○問題データベースの活用  ○弱点補強問題の実施。